

新入生の皆さん、本日は誠におめでとうございます。

昨夜からの雨が上がり、本日は天候に恵まれました。桜のピークは過ぎてしまいましたが、舞台の上から眺めますと、皆さんの笑顔が満開で非常にうれしく思っております。

大阪市立大学は創立 138 年を迎えます。本学のルーツとなる大阪商業講習所設立の立役者は、薩摩藩のサムライ、五代友厚公です。彼の理念の中で私が最も感銘を受けたのは、「自利より他利」を重んじるということです。このような理念があったからこそ、五代友厚公は周囲の人たちから信頼され、多くの応援を得られて、大きな事業が成し遂げられたのだと思っています。

最近では、グローバル人材の育成ということがよく言われますが、世界に通じる信頼、そして尊敬を得られる人格こそが、真のグローバル人材であると私は信じています。とは言え、伝える手段が必要ですので、まずはツールとしての英語を磨くことが大事かと思えます。大学生活の中で、英語や異文化とふれあう、さまざまな機会を用意していますので、これを活用し、また自己努力を重ねていただきたいと思えます。

ところで、1928 年に關一 元市長により日本で最初の市立大学として創設された大阪商科大学の理念は今も本学に息づいています。まず、大学を大都市のシンクタンクとすること、次に、市民生活に密着したグローバルな大学とすること、そして、都市型大学として学問の創造に取り組むことです。この理念は現在も本学の特色である自由と進取の気風を作り上げており、新入生の皆さんにも自由な発想で色々なことに挑戦してほしいと思えます。

私が学長となってから、教職員と学生が一体となって「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」というスローガンを打ち立てました。これは総合大学の知を結集して本学が得意とする健康科学分野を尖らせて、市民の健康寿命延伸に貢献していくということです。何よりも笑顔あふれるということが、素晴らしいキャンパスの証明になります。みなさんにもぜひキャンパスの中で笑顔あふれていただきたいという風に思っています。

さて、2025 年に大阪に万博を誘致するという事でみなさん頑張ってやっているところですが、学生諸君の盛り上がりが不可欠です。1970 年の大阪万博のとき、私は二十歳でしたが、その当時こんなことができるのかな、と思ったことが今や現実になっています。当時のわくわくした思いが 2025 年にもう一度味わえる。そのとき、皆さんは 2050 年の未来世界を見ることができるのです。ぜひ誘致活動にも協力してほしいと思えます。

学生には初年度というものが非常に大事になってくるため、1年目を特に大事にしてください。日本の大学生は世界で一番勉強しないという話もありますが、今は学歴社会ではなくなってきている。偏差値やどの大学を卒業したかではなく、大学で何を学んだか、何ができて何をしたいのかということを社会は強く望んでいるということを心に刻んでいただきたいと思います。目的と手段を間違わないようにしてもらいたい。まだ目的が決まっていない人もいると思うが、それは大学生活の中で見つけてもらいたいです。

終わりになりますが、新入生の皆さんには、キャンパスライフを謳歌しながら、市大生としての誇りを持って、夢の実現へと向かっていただきたいと思います。

改めまして、ご入学誠におめでとうございます。